

大規模土木プロジェクト実地研修

— 構想から設計・施工まで体感する —

参加者大募集！

「土木構造物ってどんなふうになられていくのだろう？」
「事業主体、建設会社、コンサルタントではどんな仕事をするんだろう？」
この研修に参加すればそんなことが一遍に分かります。
進行中の大規模土木プロジェクトの現場に触れながら、将来の自分の姿を想像してみよう！

研修内容	安威川ダム建設事業を例に取り上げながら、以下の研修を行う。 ①全体研修 ②部門別研修 （事業主体部門、施工業者部門、建設コンサルタント部門） ③ディスカッション、研修成果のとりまとめと、発表
研修期間	8月29日(水)～9月7日(金)（土日を除く、概ね8時～17時） 計8日間
研修場所	下記の3箇所（日程によって変わります） ○大阪府安威川ダム建設事務所 〒567-0813 大阪府茨木市大住町8-11 ○安威川ダムJV工事事務所 〒568-0092 大阪府茨木市大学生保195 ○(株)ニュージェック 〒531-0074 大阪府大阪市北区本庄東2-3-20
募集人数	20名程度 対象：土木系の大学生(3年生以上)、大学院生及び高等専門学校専攻科の学生 (応募多数の場合は、当選者への連絡をもって発表にかえさせていただきます)
研修条件	・ 交通費は自己負担になります。 ・ 学研災（学生教育研究災害障害保険）、学研賠（学研災付帯賠償責任保険）の加入が必要です。 ・ 研修場所まで片道2時間以上かかり、かつ土木学会関西支部が必要と認めた場合、宿泊費5,000円/1泊を補助します。
応募締切	2018年7月13日(金)
申込方法	土木学会関西支部のWEBサイト（ http://www.jsce-kansai.net/ ）からお申し込みください。
注意事項	服装等の詳細につきましては、当選者に直接ご案内致します。
問合せ先	公益社団法人土木学会関西支部 電話 06-6271-6686 FAX 06-6271-6485 http://www.jsce-kansai.net/

実地研修の趣旨

我が国の良好な国土開発や保全をけん引するリーダーや担い手の育成に資するため、土木系の学科等を専攻する学生や大学院生が、在学中に土木に関わる仕事に「やりがい」を見いだすきっかけとなるような機会が必要であるとの認識に立ち、進行中の大規模土木プロジェクトにかかる実際の業務を体感できるような実地研修を行います。具体的には、官公庁、建設業者、コンサルタント等の関係機関が、それぞれどのような役割を以てプロジェクトに関わっているのかについて、座学による知識習得のみならず、実地で仕事を体感できるような内容になっています。これまで専門教育を通じて学んだ専門知識が仕事の現場でどのように活用されるのかを在学中に理解することによって、更なる学びの意欲を促進するとともに、自らのキャリアデザインを描く上で参考となる情報を得る機会を提供することを目的としています。

昨年度の研修の概要（※工事の進捗に伴い今年度の研修とは内容が異なる場合があります）

全体研修（1日）		
<ul style="list-style-type: none">・オリエンテーション、現地見学・安威川ダム の経過・事業概要説明・講義（公共事業の流れ、ダムに関する基礎的講義）		
部門別研修（6日間）		
事業主体部門（2日）	施工業者部門（2日）	建設コンサルタント部門（2日）
<ul style="list-style-type: none">・事業計画の立案・地域との関わり・防災・現場での業務の進め方（現地調査、積算から竣工まで）・ダム工事の現場確認・現場実習（地域づくりに向けた取り組み、住民との調整業務、工事の実務）・若手職員との対話	<ul style="list-style-type: none">・安全朝礼・現場概要説明・公共工事の入札・契約制度・現場環境対策・打合せ会議・現場実習（現場管理）・ICT 施工技術・現場技術者の役割・若手技術者との対話・本日の振り返り・夕礼	<ul style="list-style-type: none">・建設コンサルタントについて・ダム概論・実施研修（ダム の安定計算）・ダム の施工に関する概要説明・若手技術者との対話・ダム設計技術者による現場実習・地質技術者による現場実習
ディスカッションと研修成果の取りまとめ・発表等（1日）		

※1 本研修は、採用活動の一環としてのインターンシップとは異なりますので、留意願います。

※2 大学によっては実習等の単位が認められる場合があります。所属の大学に確認して下さい。

参加学生からの声

- ・ 研修を終えて、最も良かったと思えることは、土木工事に関わる3つの部門を連続的に体験でき、対象は1つの事業であったため、それぞれの部門で違った視点を経験できたことである。これは、どこに就職しようが絶対に経験できない極めて貴重な経験だった。（大学院1年生）
- ・ 自分は土木というものの体をあまり知らなかったが、この研修を通して土木というものを知るとともに、事業主体、コンサルタント、ゼネコンのそれぞれの比較をすることができたので、とても充実した8日間となった。（学部3年生）